

グローバル化時代における韓国の教育環境

—— 都市近郊の初等教育段階における教育戦略の諸相 ——

李 仁子

東北大学大学院教育学研究科

I. はじめに

研究目的と方法

近年の韓国は、サムソンを代表格に数々の企業が国の後押しを受けて国際的評価を上げ、まさに国を挙げて世界に打って出たという印象がある。一般国民の海外旅行自由化が1989年によろやく実現したことを思えば、その急速な躍進ぶりがうかがえよう。また、企業の世界進出もさることながら、1997年のいわゆるIMF危機を契機に韓国は大量の海外移民を生み出した。現在、90年代以降に移住してアメリカやヨーロッパの諸国に暮らすコリアンの人口は数十万を数え、それ以前からの海外在住コリアンを加えれば、国外に暮らす親戚や知人を持つ韓国人の割合は非常に高いと言える¹。血縁や地縁といったつながりを大切にする韓国人にとって、世界各地に暮らす同胞の存在は、世界を股にかけるための確かなネットワークを手中に収めたことに等しい。企業レベルでも、国民レベルでも、韓国はいま、グローバル化の波に洗われると同時にその波に乗りつつあるのである。

そのことは、韓国の教育界においても見て取ることができる。「グローバル化時代に世界で活躍できる競争力を備えた子供を育てたい」という教育理念が、国家レベルから一般家庭レベルまで浸透している。もとより日本以上の学歴社会として知られている韓国である。教育に対する熱心さにおいては先進諸国でも引けを取らない。その結果、グローバル化に対応した教育戦略が様々な次元で様々な形で練られ、様々な場で実践に移されているのである。本研究は、そうした戦略や実践を含めた現代韓国の教育環境について、その実態を現場で調査すると同時に、教育に関わる当事者たちの意識や志向を探ることを目的としている。そのための方法として、グローバル化の動きに最も敏感な中流階層の家庭が多い、ソウル近郊の新興住宅地を調査地として、その地域の小学校2校を何度も訪ねて参与観察調査を重ねた。また、校長や教諭らの協力を得て、高学年の生徒たちや教員への聞き取りのほか、親たちや学習塾講師らへの聞き取り調査も行った。

本報告の狙い

しかし、実のところ調査は現在も継続中であり、しかも調査を進めれば進めるほど新たな知見や予想外の発見が次々と得られる状況である。そのため、教育環境の全体像を描くことも、教育に関わる当事者たちの意識の分析も、まだまだ道半ばの段階にある。そこで、本報告では、これまでの成果の中間報告として、韓国の初等教育段階における教育環境をおおまかに素描することを目指したい。筆者自身、韓国で教育を受けてきた者であるが、

そうした者の目にも現代韓国の初等教育環境は新鮮な驚きの連続であった。それほど大きな変貌をとげた姿を今の時点で記録に残しておくことには、それなりの意義があると思われる。

Ⅱ. 小学校の教室

写真1は、ソウル郊外のある小学校の教室である。まず目を引くのが、天井に固定された液晶大型テレビと教卓上のパソコンや周辺機器である。ソウル近辺のどの小学校に行っても、どの学年の教室でも、これは当たり前の風景だという。もちろんパソコンは大型テレビに接続されており、授業中にも頻繁に利用される。パソコンには学校全体で導入されている専用教材がインストールされており、豊富な図解や写真、ビデオ教材などが授業内容に合わせてすぐに取り出せるようになっている。実際の授業でそうした教材が活用される現場を見せてもらったが、学習を深めるのに非常に有効であると実感することができた。既存教材だけではない。教師がパワーポイントなどで自作した教材を映し出して授業の要点整理を行ったり、児童たちが学校のサーバにアップロードした作文をみんなで一緒に読んだりするといった使われ方も日常のものである。その分、黒板の出番は以前に比べて減ってきている。

写真1 <小学校の授業風景>



日本の教室にはないものがもう一つある。教卓に置かれた電話である。外部から直通でつながるこの電話には生徒が出てもいいことになっている。朝の欠席連絡もこの電話にかければいいし、教室からの緊急連絡もこの電話から発信される。いたずらに使われるので

はといった心配は無用のものらしく、それよりも利便性や合理性が優先されている。それ以外の備品や、教室の壁の使われ方、教室の大きさなどは、日本と同じようなものである。ただ、公立小学校でも大半は全教室エアコン完備である点は、羨ましい限りである。

Ⅲ. 学校での授業

一般の授業とテスト

教室ではさまざまなプリントやお知らせが配布されるが、その一つに毎週配られる授業スケジュール表がある。図表 1（適宜、日本語に翻訳済み）がその一例である。「週間学

図表 1 <毎週配布される「週刊学習案内」>



주간 학습안내

11월 5일 -11월 9일(10주) 5학년 2반

	月 (5일)	火 (6일)	水 (7일)	木 (8일)	金 (9일)
행사					
1교시	國語 (読解) ◆광고의 신뢰성 평가하기(2/2)	数学 ㉔(소수)×(자연수)(2)	英語 ◎Story Time, Activity 1, 2	音樂 ◆학예회	体育 ◎야구공을 던져 보고 게임하기
	65-69쪽	58-59-(66-67)쪽	148-149쪽	***	100-101쪽
2교시	英語 ◎Let's Write, Read and Write, Listen and Write, Let's Practice4	音樂 가락을 표현하며 노래 부르기	國語 ◆사과하는 글 쓰는 방법 알기	裁量 ◆학예회 인성교육	数学 ㉔(자연수)×(소수)
	146-147쪽	54-55쪽	72-75쪽	***	60-61(68-69)쪽
3교시	数学 ㉔(소수)×(자연수)(1)	國語 ◆사과하는 글의 특성 알기	科学 ㉔여러 가지 가루 물질로 결정만들기	特活 ◆학예회 계발활동	音樂 악곡의 일부를 변형하여 즉흥적으로 표현하기
	56-57(64-65)쪽	67-71쪽	90쪽	***	54-55쪽
4교시	社会 ㉔2)자주독립을 위한 노력, 대한 제국(1/4)	体育 ◎야구공을 던져 보고 게임하기	科学 ㉔나도 과학자(응해 원리 설명하기)	実科 1. 정보 기기의 특성과 활용(1/6)	國語 ◆웃어른께 사과하고 싶은 내용을 글로 써서 전하기(2/2)
	60-62(42)쪽	100-101쪽	90쪽	110-111쪽	76-79쪽
5교시	科学 ㉔응해와 관련된 원리를 적용하여 글로 나타내기	実科 2. 꽃이나 채소 가꾸기(5/5)	特活 (開發) ▷각 부서로 이동하여 계발활동에 참여하기(계발활동)	國語 ◆웃어른께 사과하고 싶은 내용을 글로 써서 전하기(1/2)	美術 민속 공예품만들기
	86(38)쪽	105-107쪽	-	76-79쪽	융통성쪽
6교시	道徳 2.이웃과 화목하게 생활하려면	社会 ㉔2)자주독립을 위한 노력, 대한 제국(2/4)		英語 ◎Let's Review, Project	美術 여러나라의 민속 공예품 체험하기

	154-159(138-141) 罫	63-64(43)罫		150-151罫	罫
--	-----------------------	------------	--	----------	---

習案内」と題された一週間の授業時間割表なのだが、毎日の各時限ごとに何を学習するのかが教科書のページ数入りで細かく記載されている。時間割はクラスごとに異なり、また週によって少し変動するので、各担任が毎回作成する。もちろん毎日予定通りに授業が進むわけではないが、おおよその目安は家庭でも共有できるように工夫されている。図表1から分かるように、例えば小学5年生では、国語、数学（日本の算数にあたる）、科学（理科）、社会の主要4教科の他に、道徳、美術（図工）、体育、さらに英語や実科などの教科がある。実科は、日本の家庭科に技術や情報などの教科を合体させたようなもので、学習内容は幅広い。さらに、子どもの自発的学習を促す文化的活動の時間（特活）や、その時々に行事に合わせた練習や外部の人に依頼して特別授業を行う担任裁量の時間もある。各教科の授業時間数は週ごとに小さく変動するが、標準的な数字（高学年の場合）を以下に示すと、国語5時間、数学4時間、科学3時間、社会3時間、道徳1時間、美術2時間、体育3時間、英語3時間、実科2時間、特活と裁量で3時間となる。ただし、この数字はあくまで一つの基準に過ぎず、実は地域や小学校ごとに違いがある。極端なケースでは、英語が週に5時間を越えるような公立小学校もある。

韓国では小学2年生のときから学習の定着具合を測るために、中間・期末テストが年に計4回行われる。テストは国語・算数・理科・社会の四教科が対象で、4年生までは基本的な確認テストといった意味合いが強い。そのため問題も平易で平均点も高いのだが、5年生からは難易度が上がり、得点にもかなりのばらつきが生まれる。ほとんどの親たちはこのテストの成績をととても重視しており、子どもたちもテストの時期になると遊びを控えたり、塾での学習時間を増やしたりする。学校でもテスト直前はテストの予行演習のような授業が続くことが多い。部外者の目には詰め込み教育の極みのようにも映るし、実際そうした弊害がないとは言えないが、親、教師、塾等といった子供の教育環境全体が総力を挙げて学力の底上げを図っているエネルギーな現場とも考えられる。学習の定着程度を誰も責任を持って確認することをせず、学力の低下が叫ばれると互いに責任転嫁をし合うような教育環境とは大きく隔たっていることは確かである。

ITやネットの駆使

アジアでいち早くIT先進国となった韓国はIT立国を国家戦略の一つとして位置づけ、国民生活のあらゆる領域で高度なIT化を推し進めている。初等教育もその例外ではなく、学校システムのIT化はもとより、授業や宿題、児童間の交流に至るまでITを援用している。小学校ごとに立ち上げられている公式ホームページ（写真2）には、児童全員が参加するクラスごとの掲示板（写真3）や個人のページが用意され、パスワードを使って生徒や親が自由に入出入りしている。担任も毎日書き込みをチェックし、コメントを残したりもする。プリントとして配られる週間学習案内もクラスのページに再掲されている。高学年になると公式サイトへのアクセスを前提にした宿題も出されるようになり、例えば課題作文の提

出先としてクラスの共有フォルダが指定されたりする。学校側からのアンケート等もネット上で行われ、親が回答を求められることもままある。

写真2 <小学校の公式ホームページ>



写真3 <クラスごとの掲示板>



掲示板や個人ページはすべてブラウザベースではあるが、高度な編集機能を備えており、作図したり画像を掲載することも容易である。そうした機能をフルに活用して、毎日のように写真をアップロードしたりオリジナルの算数パズルを出し続ける子どもや、新聞やテレビでの報道についての意見を書きつづる子どももいる。クラスごとの掲示板には、クラスや家庭での出来事の報告、学校行事についての意見や感想、友だちの行いに関する感想等、様々な書き込みが見られる。ただし、そのすべては担任や親たちの目にもさらされており、日本で問題になっている学校裏サイトといったものとは明らかに異なる。いわば表舞台でITを堂々と使わせ、今後に備えた訓練をさせているのである。IT抜きで生きていくことができないであろう今後の社会でITを生活の道具として有効活用していくために必要な技能と姿勢を早くから修得させようとする。ネットやITの危険性ばかりに気を取られ、その積極利用を諦めてしまうのとは真逆の教育方針が採られている。

放課後の特別授業

韓国の教育事情が語られるとき、しばしばその過剰な塾通いがクローズアップされる。しかし実際のところは、公教育の側も押されっぱなしというわけではない。というのも、そのほとんどが公立である韓国の小学校には、塾とは違った形でのオプションの授業が用意されているからである。その一つは「英才班」と呼ばれる特別クラスである。小学4年生から始まるこのクラスは、各クラスから選抜された児童だけが受講を許される。選抜基準はテストと担任の推薦である。放課後に学校の教室を使って行われるのだが、そこでは普通の授業では習わないような一段上の内容や応用問題が教えられる。韓国でも普通の授業は児童全員が理解できることを目指すものであり、いわゆる「できる子」には物足りない内容である。成績優秀な児童に早い時期から高度な教育を施し、さらなる跳躍を学内で

支援することで、そうした構造的な欠陥を補おうとしているわけである。明らかにエリート優遇の教育格差助長なのだが、廃止を求める声はついぞ聞かれない。現代の韓国全体が苛烈な競争社会であるためか、その縮図とも言える英才班は、入りたい／入れたい場所ではあっても排除の対象にはならないのだろう。

小学校が用意するオプション授業のもう一つは、同じく放課後に開かれる「お稽古事」クラスである。英才班のような選抜はなく、申し込み順で誰でも入れる。教授内容は多様で、能力別クラス編成をとっている英語や中国語のほか、ピアノやバイオリン、フルート、ドラム等の楽器演奏（楽器の無料貸出あり）、合唱やパンソリ、ミュージカルや管弦楽、囲碁やチェス、ロボット製作や理科実験、レゴ作り、マジック、美術、調理や菓子作り、乗馬（校庭に馬が来る）等々、実にさまざまな教室が学期ごとに開設される。保護者の要望や施設の制約などもあって開設されるクラスは学校ごとに異なるものの、都市部ではおおよそ語学系のクラスと音楽・芸術系のクラスが数多く用意され、ついでロボット・実験系のクラスがいくつか開かれる傾向にある。図表2は、ソウル近郊のある中規模小学校で配られた開設授業一覧である。どのクラスも学内の教室を利用するが、教える先生はそれぞれ学外からの専門家である。そのため、先生への謝礼や教材費として受講料が別途かかる。その額はクラスごとに異なるが、よそで受講するのに比べてとても格安に設定されている。

図表2 <放課後の開設授業一覧>

科目	受講学年	時間	曜日	月受講料 (材料費,教材費)	備考
バイオリン (週2回 120分)	1-2	13:00-14:00	月	月 ¥32,000 (約12ヵ月 ¥6,000)	
	3-4	14:00-15:00			
	5-6	15:00-16:00			
	全学年	13:00-14:00	水		
14:00-15:00					
フルート (週2回 120分)	全学年	15:30-16:30	水	月 ¥32,000 (約12ヵ月 ¥7,000, 既存の教本活用可)	
		15:00-16:00	木		
読書・論述 (週1回80分)	1-2	14:00-15:20	木	月 ¥24,000 (3ヶ月 ¥11,000)	
	3-6	15:20-16:40			
囲碁 (週1回 100分)	1-2	13:10-14:50	金	月 ¥24,000 (月 ¥9,000)	
	3-6	15:00-16:40			
科学実験 (週1回 80分)	1-2	13:20-14:40	月	月 ¥24,000 (月 ¥16,000)	
	3-6	15:10-16:30			
ロボット教室 (週1回 100分)	1-2	13:10-14:50	水	月 ¥24,000 材料費 4-5ヶ月 1-2学年(アイロボッ ト):65,000 3-6学年(ヒュー ーマノイド):75000	
	3-6	15:00-16:40			
クレーとクッキー作り (週1回 100分)	1-2	13:10-14:50	金	月 ¥25,000 (月 ¥10,000)	
	3-6	15:00-16:40			
漢字	全学年	14:00-15:00	火	月 ¥27,000	

(週2回 120分)	全学年	15:00-16:00	金	(約 ¥7~8,000)	
		13:10-14:10			
		15:00-16:00			
創作美術 (週1回 80分)	1-2	14:00-15:20	木	月 ¥24,000 (材料費別途)	
	3-6	15:20-16:40			
料理・製パン (週1回 100分)	1-2	13:00-14:40	月、水 中休日	月 ¥24,000 (材料費 月 ¥20,000)	
	3-6	15:00-16:40			
音楽縄跳び (週2回 120分)	1-2	14:00-15:00	火、木	月 ¥27,000	
	3-6	15:10-16:10			
マジック (週1回 100分)	1-2	13:00-14:40	月	月 ¥25,000 (道具費 月 ¥10,000)	新設
	3-6	14:50-16:30			
ミュージカル (週1回 80分)	1-2	13:00-14:20	月	月 ¥30,000	新設
	3-6	15:00-16:20			
航空科学 (週1回 90分)	1-2	13:00-14:30	金	月 ¥25,000 (教具費 3ヶ月 ¥75,000)	新設
	3-6	15:00-16:30			
算盤暗算 (週2回 120分)	1-2	14:00-15:00	火、木	月 ¥30,000 (月 ¥8,000)	新設
	3-6	15:00-16:00			
管弦楽 (週1回 100分)	全学年	15:00-16:40	金	月 ¥30,000 (準備物:譜面台)	新設
英語 (週2回 120分)	1-2	13:20-14:20	月、水	月 ¥25,000 (教材費 3ヶ月 ¥11,200)	
	3-4	14:30-15:30			
	5-6	15:40-16:40			
数学 (週2回 120分)	1-2	13:20-14:20	月、水	月 ¥33,000 (3ヶ月 ¥15,000)	
	3-4	14:30-15:30			
	5-6	15:40-16:40			

IV. 下校後の教育環境

塾や習い事

学校が終わった後の児童たちは多忙である。その多くは塾や習い事に通い、学校の授業より密度も濃く課題も多い時間を過ごすことになる。韓国ではごく稀な例外を除いて中学受験が存在しないので、進学目的の塾通いをする小学生はほとんどいない。その代わりに、英語塾や英会話教室、速読や論述を教える塾に通う子どもはとても多い。数学や科学などの教科ごとに先取り勉強と復習を同時に見てくれるような塾も人気が高い。習い事では、音楽（ピアノ、フルート、ギターなど）を習う子どもが男女ともに目立って多い。また、スポーツ系の習い事では、テコンドーやサッカーは男子に人気があり、水泳は女子にも人気がある。他にも、特に女子を中心に美術教室に通う子どもも少なくない。

図表3は、標準的な児童の一週間分の放課後学習スケジュールである。毎日、なんらかの塾や習い事でかなりの時間が埋まっている。時間割が連続している部分は、帰宅せずにそのまま次の塾や習い事に移動していることを表している。夕食の時間が曜日によってはかなり遅くなったりするが、中学生や高校生になればもっとハードな時間割で塾通いをする

ることになるので、その予行練習ぐらいに考えられているふしがある。

図表3 <標準的な児童の放課後学習スケジュール>

小学4年生 男子

	月	火	水	木	金	土
13:00						
14:00			ピアノ			
15:00	速読		速読		速読	
16:00						
17:00	ピアノ	英語		英語	サッカー	
18:00						
19:00		合気道		合気道		
20:00						

小学5年生 男子

	月	火	水	木	金	土
13:00						サッカー
14:00						
15:00						
16:00	英語	数学	論述	数学	英語	
17:00						
18:00						
19:00						
20:00	フルート	英会話(ネイティブ)				

小学生向けの塾や習い事の教室はたいてい専用の送迎バスを所有しており、地域を巡回しながら自宅近辺や学校正門前などに送迎に来てくれる。子どもが時間通りにバスに乗車しなかったり、教室の終了時間が遅れたりしたときなどは、親の携帯にさっそく連絡が入る。親にとっては便利この上ないシステムである。そのためか、中には、子どもに塾のは

しごをやらせている間に自分はスポーツジムで汗を流すような母親も出てくる。反対に、家庭での学習に力を入れている親も少なくない。子供を塾に通わせたりせず、親子で話し合っただけの範囲の勉強を、取り決めた時間分しっかりとやらせるのである。そうした独習に適した教材もいろいろと市販されているので困ることはない。むしろ、高学歴で専門職に就いていたようなタイプの母親たちの間では、家庭での自主的な学習を選択し、子どもへの教育に自ら関わろうとする傾向が強い。

家庭教師やグループ学習

塾通いや自主学習だけではない。都市部では小学生のうちから、家庭教師による個別学習を受けたり、仲間内で専門家を招いて教わるグループ学習で勉強することも、徐々に一般化してきている。韓国は大学院進学率や海外留学率が日本と比べても非常に高く、高学歴で勉学に秀でているが教授職には就けていない人材が社会に溢れている。そうした余剰高級人材が、有名大学の現役生よりも人気のある家庭教師として、読書の手ほどきをしてくれたり、英会話の相手をしてくれたり、数学や科学の勉強を見てくれるわけである。時代の流れとはいえ、贅沢な話である。

同様のことは芸術分野にも当てはまる。昔から韓国ではピアノやバイオリンを習うと言えば、それは先生が自宅まで教えに来てくれるものであった。音楽の習い事が昔よりずっとポピュラーになった今でも、その傾向は変わっていない。図表3の中にあるピアノやフルートも、実は訪問個人レッスンである。それが可能であるのは、美大や芸大を出たものの、その専門性を活かさない人材が一つの層を作っており、そこが楽器などの訪問教授者の供給源となっているからなのである。

勉強の家庭教師にせよ楽器の訪問教授にせよ、個別指導を受けるとなると、塾通いや教室通いよりもその経済的負担はかなり大きくなる。実際、韓国の一般的な家計に占める教育費の割合は、しばしば新聞・テレビを騒がすほどに高く、先進諸国の中でも突出しているように感じられる。

ITという味方

下校後にどのような学習を課されるかはそれぞれだが、いずれにせよ子どもたちはかなりの時間を勉強に取られているのが現状である。しかし、それでも友だちとは遊びたい。そういう子どもたちにとって、ITは強い味方になる。韓国の都市部では小学生のほとんどが携帯もしくはスマートフォンを所持している。通話料金が高いので電話はあまり使わないが、SMSメールやメッセージングアプリを器用に使いこなして子どもたちは遊びの連絡を取り合っている。今の時点で連絡の取れた仲間同士で、塾や習い事のためのすきま時間をすりあわせ、互いに都合の良い場所で落ち合って遊ぶ。塾や習い事の送迎バスが来た時点で、一人抜け、二人抜けしながらも遊べる時間はきっちり遊び切る。その姿を見ていると、時間に追われて可哀想というよりも、そのたくましさに関心させられる。学習のさまざまな局面でITを利用するばかりか、ITを何にでも応用して使い倒すこのたくましさは、グロ

ーバル化への対応策として親たちが目指した教育の主目的ではなかつただろうが、その思わぬ副産物であった。

ITはまた別のところでも放課後の子どもたちの味方である。同じ小学校に通っていてもすべての子どもたちの経済環境が等しいわけではない。家計が本当に厳しい家庭もあり、そうした家では塾だの家庭教師だのと言ってられない。とはいえ、勉強をさせないわけにはいかない。そんな場合に役立つのが、インターネットテレビを利用した教育番組である。主要科目すべてをカバーするこの教育番組は、専用のテキストも安価に市販されており、中間・期末テスト対策もしっかりと施されている。授業を担当する先生たちの指導力も優れており、番組全体の完成度は非常に高い。しかも、ネットテレビの利点を活かしてすべてオンデマンドでいつでも繰り返し無料で視聴できる。この番組と専用テキストで勉強するだけでも相当の学力が身につくと思われる。実際、自主学習の一部に採り入れている家庭もあった。また、家計に問題はないが、山間部のように自宅近くに塾などがない子どもたちも、この番組の恩恵を受けているという²。

V. 外国語（英語）教育

小学3年生からの英語

韓国で英語が小学校の正式な科目として導入されたのは、1997年からである。英語の授業は小学3年生からスタートし、3～4年生の間の標準的な授業時間数は週に2時間、その後は週3時間である。初めはごくごく平易な英語表現に慣れることが目標とされるが、学年が進むにつれ学習内容はどんどん高度なものとなっていく、授業で使われるボキャブラリーも驚くほど多くなっていく。その結果、小学校卒業までの4年間に、日本の中学3年間で習う英語表現の大半は教わることになる。ただし、文法用語を使った体系的な学習はなされていない。むしろ、口語でどのようにコミュニケーションをとればいいのかという点が重視されたカリキュラム編成である。文法面での正確さよりも実際の口語表現を、「読む書く」よりも「聞く話す」を、まずは習得させることに主眼を置いた英語教育が目指されていると言えよう。

ネイティブによるオール英語授業

そうした方針は英語の授業スタイルにも反映されている。まず英語の教師は、ネイティブか英語圏への留学経験者等（帰国子女を含む）に限られている。きれいな発音で英語が自由に話せることが教授条件となっている。ネイティブ教師と韓国人教師はペアを組む形で各クラスを担当しており、生徒からの質問や親からの相談は韓国人教師が受け持つ。また、低学年では授業中に韓国語も併用されるが、小学5年生からはオールイングリッシュに切り替わっていく。ネイティブの教師はたとえ韓国語を話せても授業中には一切使わないという態度を貫き、韓国人の教師も滅多に韓国語を使わない。したがって、テキストの説明や生徒への行動指示もすべて英語で行われる。もちろん、生徒たちの理解を促すため

に絵コンテやビデオ教材が用いられるし、生徒同士が韓国語で教え合うことはある程度黙認されているので、英語が苦手な生徒でも授業に参加することができる。授業の内容は、主に英語を使ったゲームや、教科書にあるスキットの練習、習ったスキットを応用して生徒たちが演じる即興劇や教師とのやりとりなどで構成され、英文の文法や構文の解説はほとんどない。オールイングリッシュ授業の強みを活かして音声でのコミュニケーションを学ばせながら、それ以外の部分は中学生になってから学ばばよいこととして大胆に割愛している。

学校外の英語教育

では、こうした授業でどの程度まで英語が生徒たちに定着するのだろうか。英語に関しては中間・期末テストが行われなため、その定着度を数値化して測ることは出来ない。しかし、筆者が参観した小学5年生のオールイングリッシュ授業に限って言えば、生徒の大半は教師の英語の指示をきちんと理解しており、教科書のスキットを基にした即興劇も十分な完成度を有していた。また、教師との英語によるフリートークも多くの生徒が積極的に参加できており、そのコミュニケーション能力は侮れないレベルであった。

ただ、こうした高い英語力は学校の授業だけで培われたものとは言えない。今日の韓国の都市部では、小学校入学前から英語教室に子どもを通わせることは決して稀なことではない。少なくとも英語授業が始まる小学3年生までには、多くの子どもたちが何らかの英語教材で英語の基礎を学んでいるのが現状である。子ども向けの英語教材は実にたくさん開発されており、それらは単に教材だけが販売されるのではなく、販売元から専門の指導員が各家庭に週に何日も派遣され、販売した教材を使った学習支援を行うことも少なくない。高額だが効果があることで有名ないくつかの教材は、すべてこの方式である。教材による自宅学習や英語教室の他にも、長期休暇を利用した小学生対象の英語キャンプも韓国では当たり前の風景となってきた。一週間から一ヶ月ほどのキャンプ期間中、24時間オールイングリッシュの生活を送る英語キャンプは、今では専用のキャンプ施設や英語村まで作られるほど人気を集めているのである。

こうした英語教育環境が急速に整備され得た背景には、ネイティブ教師の全国的な配置を熱心に推し進めた政府の役割も大きかったが、それ以上に英語が自由な人材が韓国国内で急増したことが大きかった。そうした人材は、帰国子女であったり、在米コリアンの帰国者であったり、留学経験者であったりするのだが、総じて高学歴でありながらその学歴を活かした希望職種に就けなかった人たちである。英語においてもまた余剰高級人材が韓国の教育の底上げに貢献していたと言える。

VI. まとめ ～グローバル化と世界共通語

現代の韓国における小学生を取り巻く教育環境を、以上、ざっと概観してきた。むろんそれは網羅的なものではない。書き漏らしや見落としもあるだろう。またそれは、標準的なもの

のでもない。はじめに断ったように、今回は韓国の首都圏あるいは大都市部における教育環境であり、地方の過疎地域などでは自ずから異なる部分があるからだ。とはいえ、グローバル化時代における韓国の教育の実情を具体的に伝える報告としては、一定の価値を有すると言えよう。

そこで、以下では、韓国の初等教育環境をグローバル化への対応といった視点からもう一度見直し、グローバル化時代に即した教育戦略として取り組まれている点をいくつか取り上げることで、本報告のまとめに代えたい。なお、ここまでは聞き取り調査の成果をなるべく交えずに筆者が実見した事象のみを記してきたが、以下ではそうした成果も盛り込みながら論じていく。

まず、第一の点として挙げられるのは、充実した英語教育である。学校の内外を問わず、かなりの力の入れようである。子どもたちが英語にふれる（いや、囲まれるといった方が正確だろう）時間の長さ、使われる教材の作りやレベル、指導に動員される人材の質など、あらゆる面において日本の先を行っている。しかも、聞き取り調査の結果によれば、そこで目指されているのは帰国子女並みのオーラル・コミュニケーション能力の養成、すくなくともその基礎固めなのである。教育内容も十分ハイレベルであるが、要請されているレベルはもっと高かったわけである。むしろ実際にそのレベルに行き着く子どもは少なからう。しかし、同時に、ネイティブと英語でコミュニケーションを取ることに臆する子どもはもっと少ないのである。そのことがその後の中・高等教育においてどのような意味を持つかは、あえて論じるまでもなからう。

第二に、ITの習得や理科の勉強に特段の配慮が払われているという点が挙げられる。IT教育は専用教室を使って学校でも行われるが、むしろ家庭でのパソコンの日常的使用が子どもたちの能力向上には役立っているように見える。宿題の調べ物をネットで検索させたり、学校のサイトに日誌を書き込ませたり、小学生のうちからパソコンを日常の道具として使わせる仕掛けもうまく機能している。パソコンがゲーム機化する危険もないではないが、小学生のうちからパワーポイントぐらい使えないでどうする、といった声の方が多数派である。また、いわゆる主要四教科の中で、理科は特別扱いされている。英語と同様に、理科の授業はクラス担任ではなく理科担当の専門教員が受け持ち、理科室で行われる（そのため理科室が複数ある学校も少なくない）。生徒数の少ない小学校では実施されていないが、大規模校には複数の理科担当教員が配置され、理科実験の手法やITを使った教材の開発にも取り組んでいる。放課後の授業でも、理科実験や科学ロボットのクラスはすぐに定員が埋まるほどの人気で、親たちも自分の子どもがそうしたクラスに興味を持つことを願っている。

第三に、学校や塾でこれだけ忙しいのに、さらに音楽や美術といった習い事に相当の時間とエネルギーがすぎ込まれているという点を指摘しておきたい。韓国では基本的に習い事は少なくとも週に2・3回、できればもっと稽古するものと考えられており、そのため

習熟進度も速い。続けていけば比較的早いうちにそこそこのレベルには到達できるわけで、その過程で才能が見出されたり開花すれば専門の道を歩めばよいし、たとえそうでなくても生涯の趣味としてたしなんだり、世界中どこに行っても同好の士と交流するのに十分な素養は積めるのである。こうした芸術系の教育は主に学校外で行われるため、費用も相当にかさむのだが、親たちはことのほか熱心である。

これまで述べてきた3つの取り組みには、一つの共通点がある。それは、世界のどこに行っても通用する普遍性を備えたものを教えているという点である。英語は国際共通語であり続けているし、IT技術や理科的知識は国境を越える。音楽や美術はノンバーバル・コミュニケーションの代表格である。つまり、それらはすべて「世界共通語」なのである。あるいは、世界のどこに行ってもそこで互角に渡り合うための基礎体力と言ってもよい。そうしたものを初等教育の段階から重点的に身につけさせようとする実践的な取り組みは、グローバル化に対応した教育戦略として非常に有効なものと考えられる。今後ますます世界はグローバル化の潮流に呑み込まれていくと想像されるが、その過程において教育に関してどこまで戦略的な取り組みを実践に移せるか。それは日本においても喫緊の課題だと言えよう³⁾。

参考文献

- 김한중 외 (2005) 『한국근현대사교육론』 선인 (『韓国近現代教育史論』)
- 이완기 (2012) 『초등영어교육론』 문진미디어 (『初等英語教育論』)
- 임희정의 (2010) 「디지털 영어 교재 학습활동에서의 초등학생의 학습전략 연구」 『현대영어교육』 11-1, 현대영어교육학회, 213-235 (A study of elementary school students' learning strategies during digital English materials-based activities)
- 정광순 외 (2012) 『2009 개정교육과정에서 따른 초등학교 통합교과교육론』 학지사 (『2009年改正教育課程における初等学校統合教科教育論』)
- 조연순 외 (2000) 「창의적 문제해결력 신장을 위한 초등과학교육과정 개발 및 적용」 『한국과학교육학회지』 20-2, 한국과학교육학회, 307-328 (Development and Application of Elementary Science Curriculum to Enhance Creative Problem Solving Abilities)
- 최수영 외 (2009) 「초등학교 영어 공교육 강화를 위한 멀티미디어 활용 교수, 학습 방안 연구」 Multimedia-Assisted Language Learning 12-1, 한국멀티미디어언어교육학회, 231-258 (A study on application of multimedia teaching aids for effective elementary school English education)

注

- 1 韓国の総人口は、2012年時点でようやく5千万を超えたところである。
- 2 テレビの他にも、ネットを利用して教育コンテンツを提供するサイトはいろいろある。大半は有料サービスだが、中には地方自治体が作成・運用するサイトもあり、有料サービスに引けを取らないクオリティのコンテンツが使い放題である。ただし、教科書の復習や補習といった位置づけなので、利用者はそれほど多くはないと思われる。
- 3 本稿では基本的に教育環境の「正」の面に注目した。そのため、その「負」の側面に関する言及がほとんどなされていない。しかし、実際には現代韓国の教育環境には多くの問題点も指摘されている。例えば、試験成績などの一元的尺度による評価の浅薄さや、過度な競争による学歴社会のさらなる固定化、子どもの受けるストレスと暴力の問題などである。こうした正・負両面にわたるバランスのとれた調査や分析は今後の課題の一つである。